

2026年度
入 学 試 験 問 題
(B 日 程)

国 語

注 意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1/5から5/5まで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙に受験番号を書きなさい。名前を書いてはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された解答らん^①に書きなさい。問題用紙に書いても得点になりません。
- 5 解答用紙はこの表紙の裏にあります。
- 6 「終了」^{しゅうりょう}の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。
- 7 問題および解答用紙は机の上に置き、持ち帰ってはいけません。

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

建築家というシヨクギョウについて考える際に、まず最初に建築をつくり上げる上において本当にさまざまな要素があるということを知る必要があります。複雑なものをいろんな人との共同作業でつくるということもそうですが、僕が大切にしたいものの一つに、いかに美しいモノをつくるか、ということが挙げられます。

洗練された美意識によって創出された美しい素材の組み合わせや、綺麗なプロポーションというものがあります。自然界にある植物は、説明不要に美しい。一本の木は、遠景における葉の茂り方も、近景で見る枝振りも、あるいは顕微鏡などで見た細胞レベルにおいてまで美しいものです。野に咲く一輪の花の美しさもまた、無条件に人の心に響くものがあります。

しかし、僕がよく想像するのは、見えているものの美しさの向こう側にあるかもしれないもう一つの世界のことです。物質的に手で触れることができるものではなく、そうしたモノに宿った「見えない世界」の美しさについて考えるようにしています。

建築家として建物を設計する際に、目に見えるモノだけを考えながらデザインするのでは、何か物足りない気持ちになることがあります。表層だけが美しくても決していい建築にはならないと思うからです。本当の美しさは、見て美しいだけでなく、五感のすべてに訴えかけるもの。実際に、建築が完成するまでに現場でハタラいている建築家としては、最終形態として完成する美しいモノの背景にあつた見えなくなつてしまったものにも、気を配らないといけません。

つまり、表層的な美しさを支えているのは、見えなくなつてしまった下地など、そのプロセスにこそ依存しているということがあるのです。それは、何か見えない法則のようなものが支えている美しさの強度かもしれません。

一例を挙げてみたいと思います。一枚の土壁が完成するのには、竹から編まれた竹小舞が下地になります。そこに、土や砂を水と丁寧に調合した粘土のようなタネを鏝で竹小舞にひっかけるようにして塗り込みます。下塗りをしたら乾かせますが、乾燥すると壁がひび割れます。下地をパリパリとひび割れさせてから、数日後に中塗りをします。また乾燥させて、仕上げのタネを塗る。とにかく手間と時間がかかる作業であるため、今では一軒丸々土壁という家をすっかり見なくなりました。物質としての土壁が、その場所で呼吸をし、水分を吸収したり、放出したりしながら、左官職人の手の痕跡とともに、完成していくと独特な輝きを放つようになります。

完成した土壁には手間暇かかった竹小舞はもちろん、積層させるように丁寧に塗り重ねられた下地の壁は既に見えなくなつてしまつています。ひび割れした下塗りも、もはや、いつさい見えません。しかし、そうした職人たちの思いは、必ず土壁の表面から滲み出るものです。竹小舞でなく、薄いボードの下地にわずか数ミリの厚みでちよこつと土を塗つただけでつくられた土壁には、どうしても長い時間に耐える強度が備わりません。見せかけの美しさは、弱い。仮に、竣工当時は同じく美しく見えたとしても、しばらく時間が経つにつれてガタがきます。楽してつくられたものは、決して持続可能な美しさを獲得できないのです。

表面が見美しいフローリングは、無垢の木材と比べて、パツと見同じように見えるかもしれませんが。その床の上を裸足でずつと過ごしてみると、木のぬくもりや、味わいなどの違いが必ず感じられます。自然素材は、硬くAで綺麗なフローリングと違って、フシがあつたり、反ったりして、まったく平らではないこともあります。しかし、そうした自然の動きも含めて家を構成しているモノが美しいと感じられるようになりたいと思っています。

料理にたとえるとわかりやすい。本当の美味しさは、手間を惜しまず準備された料理に宿るのではないでしょう。食卓に並べられた料理には、それを丹精込めて調理してくれた母親の思いや、その食材に愛情を注いで育ててくれた農家さんたちの痕跡はもはや見えないかもしれません。しかし、そうした不可視なものは、きつと見るのとは違った形で僕たちが感じることでできるのだと思つています。

外的な表象の美しさの有無にかかわらず、物質的なモノの世界を超えて、見えない物語へとアクセスする扉をみつきたい。レストランの厨房では、美味しい料理を客にデキョウするためにはほとんどの時間は、開店前の仕込みにかかつていたりします。コンビニエントな料理は、コンビニエントな味しかしません。出汁をとつたり、食材を綺麗に洗つて切つたりする作業には、近道などないのです。

先に述べた土壁の例に戻ると、土壁に降り注いだ太陽の光がじっくり出す陰影の美しさは、見飽きることがありません。惚れ惚れする土壁を見ながら、それを塗ってくれた左官職人のことを思つたり、原材料の土があつた山の風景に想いを馳せたりするほど、うっとりする美しさというものがある。床においても、歩きながら足の裏で感じた心地よさを介して、つくつてくれた大工さんや、伐られた森に想像を巡らせたい。実際に見えるモノだけではなく、その向こう側にあるかもしれない見えないものに、建築家として対処することができないだろうかといつも考えています。その内に美しさを秘めた見えない存在を、仮に「物語」と呼んでもよいでしょう。

多重に絡み合つていく中で、見えにくくなつてしまった物語を丁寧に組み上げて、空間の魅力を発見していく。物語は、見えないのみならず、数値化もできません。しかし、そうした見えないものとの交流を通してこそ、本当の美は発見できると信じています。

鳥山明の描いた名作漫画『ドラゴンボール』では、「スカウター」という目に取り付ける機械が出てきます。それは、相手の戦闘能力を教えてくれるのですが、世の中の多くのものはそもそも数値化できません。なにも霊的なものについてお話ししているわけではありません。ただ、亡くなったおじいちゃんの形見の腕時計には、何か特別な想いが宿つていて、他人には無価値であっても、その物語を受け取ることができる人にとっては、かけがえのない価値のモノであるはずで

空間も同じく、そこにたずさわつた多くの人の数値化不能な想いを宿しています。それを、無価値に考えることに強い違和感を覚えます。部屋の面積や家賃、駅から徒歩何分といったデータは、計測可能な数値化できる建築の価値の一面面に過ぎません。そのようなシャクドは空間を評価する上で、比較しやすく、査定する上でも都合がいいものです。そうした切り口が必要なものは、よくわかります。

けれどもそれ以外にも空間に込められた声なき声としての物語があると思うのです。僕にとって価値のあるものが、あなたにとって無価値であることも多くあるでしょう。しかし、人それぞれの固有な価値ある物語を黙殺してはならないように思います。

万人にとつて等しく価値があるように思われるお金みたいに、数値化可能なものは比較が容易であり、交換可能なものです。そのほかの多くのモノの価値は、人それぞれであり、そのように評価がバラバラで、違っているものを、わざわざ同じ土俵に上げる必要などあるのでしょうか。みんな違った固有の価値観をもっているのだから、それを尊重することはあつても、比較したり、批判したり、ましてや優劣を付ける必要など、まったくくないと思うのです。

モノそのものは、割れたり、壊れたりしていつかはなくなる、儚いものです。でも、心の目で捉える物語は、なくなることがありません。一個人をつくっている弱い現実や強い現実が多様であるように、建築家として建築を設計する上で、その場所に隠れている力や際立った特徴

のないものなどの見えない何かを、いかに顕在化^{＊けんざい}できるかということが建築家^{＊たぐ}に託された大事な役割だと感じています。

（光嶋裕介『建築という対話―僕はこうして家をつくる』）

＊プロポーション……全体のバランスのいい状態。

＊プロセス……過程。

＊竣工……工事が完了して（建造物が）できあがること。

＊無垢の木材……天然の木をそのまま切り出して使った、接着剤などの人工的な加工を一切行わない木材。

＊表象……イメージ。

＊コンビニエント……便利な。使いやすい。

＊顕在化……物事がはっきりと表に出ること。

問一 ――線部1～5のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ――線部①「自然界にある植物」は、どのような美しさをもつものの例として挙げられていますか。その説明として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 表面的な美しさ イ 五感で感じとる美しさ ウ だれもが感じとれる美しさ
エ 目に見えない美しさ オ 特別な人にわかる美しさ

問三 ――線部②「何か物足りない気持ちになることがあります」とありますが、筆者がそのような気持ちになるのはなぜですか。理由を説明したものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 建築が美しいものになるためには、さまざまな視点でデザインすることが大事であると考えているから。
イ 建築が本当の美しさを備えるためには、形よりも素材にこだわるのが大事であると考えているから。
ウ 建築が本当の美しさを備えるためには、視覚にたよらずにつくることが大事であると考えているから。
エ 建築が美しいものになるためには、つくりあげる過程に気を配ることが大事であると考えているから。

問四 ――線部③「とにかく手間と時間がかかる作業である」とありますが、土壁はどのようにして完成しますか。解答らんに続くように、本文のことはを用いて三十五字以内で説明しなさい。（ ）。 「」は字数に数えます。

問五 ――線部④「そうした職人たちの思いは、必ず土壁の表面から滲み出るものです」とありますが、それはなぜですか。理由を説明したものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 職人たちが美しい土壁をつくることにこだわるからこそ、目には見えない思いが土壁に宿り、かがやくから。
イ 職人たちが細部まで心をこめてつくる下地は、土壁の大切な土台となり、他にはない味わいを生み出すから。
ウ 職人たちが誇りを持って作業することで、壁の細部まで手のこんだ細工がほどこされ、芸術性が高くなるから。
エ 職人たちが自らの手で下地をつくることで、土壁に命がふきこまれ、呼吸をして生きている土壁になるから。

問六 ――線部⑤「長い時間に耐える強度」とありますが、これによってどのような美しさが得られますか。本文から八字で探し、書きぬきなさい。（ ）。 「」は字数に数えます。

問七 A にあてはまることは次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

問八 ――線部⑥「料理にたとえるとわかりやすい」とありますが、ここで筆者が「料理」にたとえた理由を次のようにまとめました。（Ⅰ Ⅱ）・（Ⅲ Ⅳ）にあてはまる適当なことをそれぞれ指定された字数で本文から探し、書きぬきなさい。

土壁のもつ本当の美しさと同じように、料理の本当の美味しさも、調理した母親や食材を育てた農家の人の（Ⅰ Ⅱ字）という、（Ⅲ Ⅳ字）なもののから感じとるものだと、筆者は考えているから。

問九 ――線部⑦「物語は、見えないのみならず、数値化もできません」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 「数値化」を説明した次の文にあてはまることは本文から探し、書きぬきなさい。

ものごとの価値を（ ）で示すこと。

(2) 「物語」を説明したものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 実際に見えるモノの存在を支え、そのモノの美しさや価値につながる固有のできごとや、それにまつわる思い出。
イ 実際に見えるモノの存在にかわり、そのモノができあがるまでの過程に起こったことや、思い出をまとめた文章。
ウ 実際に見えるモノの奥にあつて、他の人には決して感じ取ることのできない、作り手側が重ねてきた苦労や努力。
エ 実際に見えるモノの外見の美しさのために、見えないところで作り手たちがする作業と、そのための技術や経験。

問十 ――線部⑧「数値化不能な想い」とありますが、空間やモノに対するこのような「想い」について、筆者はどのように考えていますか。解答らんに合うように、本文のことはを用いて五十字以内で説明しなさい。（ ）。 「」は字数に数えます。

問十一 ――線部⑨「建築家に託された大事な役割」として本文に述べられていることを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア その土地の風土に合った材料を使用すること。
イ 職人が効率よく作業できるように取り計らうこと。
ウ 材料や土地の見えない個性や力を引き出すこと。
エ 住む人や見た人を感動させる建築をつくること。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

陸上の名門である青海学院高校を受験した「僕」は、受験当日の帰り道に事故にあい、陸上を続けることができなくなった。正也に誘われるまま入部した放送部で、陸上部をテーマにしたテレビ番組を制作することになり、「僕」は他の放送部員たちと、良太が所属する陸上部の練習を撮影することになった。

――牧場まではすぐなんで。

ドローンを準備していた黒田先輩に笑ってそう言い、僕はカメラのバッグを肩にかけて広場を出た。

たいした速度ではないけれど、歩くペースは徐々に速くなり、気が付けば下り坂を走り出していった。息が上がり、足を止める。だけど、すぐに走り出す。登り坂でも走る。また息苦しくなる。

三キロつて、こんなに長かったっけ？

ほんの一年前に挑んだこのコースは、こんなにハードな道のりだったっけ？

本番を間近に控えた陸上部が練習場所を選んだのは、全国中学駅伝の県予選大会のコースだった。行くと決まってからにはなんとなくそわそわし、だけどそれは、三崎中陸上部の練習場所でもある市民グラウンドを久しぶりに訪れた時とさほど変わらない程度のものであった。

だから、ユダン¹していたのかもしれない。ムネ²がギュッと締め付けられる感覚を意識しながらも、懐かしさに駆られて走ってしまい、自分が失ったものを改めて思い知らされる。

実際に僕が大会で走ったのは、牧場前から山の麓、シガイ³地の外れにある材木工場前までで、もう少しゆるやかなコースではあったのだけど。

ここでタスキを受け取って……。

感傷に浸っている場合ではない。蛇行した坂道の向こうにすっかり見慣れたユニホーム姿が現れた。慌ててカメラを構える。

先頭は三年生、桂木先輩。県大会でアンカーをツツめ、青海学院を全国大会に導く立役者となった一人だ。正月駅伝常連の陸上強豪校に進学が決まっていて、高校最後の大会を大学での活躍のステップになるものにした、と放送部の取材にも、熱く真摯に答えてくれた。

空気の抵抗を感じさせない、流れるような良太のフォームと違い、一步一步が力強い。

――俺の武器は足首の硬さなんだ。

取材の後、白井部長から、具体的にどういうこと？ と、その発言の解説を求められたものの、僕にも上手く答えられず、今日改めて本人に訊くか、原島先生に教えてもらうことになっている。

二位もレギュラーの三年生。カーブを曲がり切り、選手たちの全身を正面からカメラに捉えることができる。三位も三年生。そしてそのしろに、良太が続いている。

いけ、良太！ と心の中で声を上げる。

その背後に見えるのは、二年生の松本兄だ。同じ学校に妹はいないのだから「松本先輩」でいいのに、中学時代の通り名がやはり先に出てきてしまう。

個別取材を通じて驚いたのは、中学時代に表彰台の常連だった松本兄が補欠だということだ。ケガ等の不調があるとは聞いていない。自己ベストは直近の大会記録だ。つまり、成長が止まったり、後退したわけではない。それほどに、青海学院の選手層が厚く、レギュラーに選ばれるのは容易ではないということだ。

他にも、二年生を中心にそういった選手はたくさんいて、全国大会のレギュラーも、エースが抜けた一枠に、良太が謙遜しているのではなく、本当に誰が選ばれるのかわからない状態であることを知った。

交通事故に遭わず、陸上部に入っていたとしても、卒業まで補欠が約束されたような場所で、僕は泣き言をこぼさず、腐らず、続けることができるだろうか。取材直後にはそんなことを考えた。

自分の実力を思い知り、勉強を言い訳にして逃げるように陸上部を去った後で、放送部に出会えただろうか。もしかすると、正也は声をかけてくれたかもしれない。だけど、僕は少しでも興味を持つとしたらどうか。部活動そのものに背を向け、放送室に足を運ぶこともなかったかもしれない。

⑤ 半分は自分への言い聞かせ。半分は本心だ。

放送部に出会えてよかった。

トラック練習のドローン撮影は僕が担当した。動きを予測できないサッカーやラグビーといった球技と違い、被写体となる選手を常に撮りたい角度から画面にオサめることができた。

他の運動部の部員と同様に、陸上部員も動画に興味を持ち、食い入るように見ていた。疲れてきたら頭が少し右に傾いてくるな、とか、うしろへの腕の振りをあと一〇度広げることを意識しよう、などと意見が出ているのを、僕もメモを取りながら聞いていると、陸上部の戦力⑥ になれているようで嬉しかった。

――ドローンで撮った動画で動きを分析するなんて、実業団の選手にでもなったみたいだよ。すごいな。

良太は僕が転送した動画を暇さえあれば見ているのだと言う。カメラを構え直した。

そういえば、一年前、母さんもここでカメラを構えていた。息子がタスキを受け取り、駆け出す姿を撮るために。

当日、駅伝のコースは車両通行止めとなっており、見物人の並走も事前に禁止の通知が各学校に届いていたため、応援にやってきた保護者たちは、各自でカメラを持ち、数百メートルおきに離れて自分の持ち場を撮影することになっていた。それらを編集してスタートからゴールまでまとめたDVDを、僕は見していない。

トップを走る桂木先輩が目前まで迫ってくる。ここがゴールではない。全国大会の区間最長距離となる一〇キロを駅伝メンバー全員が走るらしく、ここからさらに二キロ先の地点に折り返しポイントを設け（陸上部のマナージャーが待機しているらしい）、広場まで戻っていくコースとなる。

⑦ 風が吹いた。いや、桂木先輩が僕の目の前を走り抜けたのだ。次いで、二位の選手、三位、そして、良太、松本兄、また三年生……。次々と風が僕の眼前を吹き過ぎていく。何だ、これは。

また風が。僕の前を一人通り過ぎるたび。

知らない感触^{かんしよく}じゃない。むしろ、よく知っている。だけど、違う。

この風は、かつて、僕が真正面から受けていたものだ。

僕のおでこはまあまあ広い。母さんは「優秀^{ゆうしゅう}そうに見えていいじゃない」と、まるで、私から受け継^ついだものをありがたく思え、といった口調で言うけれど、僕としてはやはり隠^{かく}しておきたいところなので、散髪^{さんぱつ}に行ってもなるべく前髪^{まえがみ}は長めに残してもらい、おでこが隠れるようにおろしている。

だけど、走れば、おでこ全開だ。だから、それをカバーする鉢巻^{はちまき}が好きだった。そんなこと、すっかり忘れていた。もちろん、強風時には同じ現象が起きる。でも、ただ受けるだけの風と、自分が起こす風とではまったく違う。

爽快^{そうかい}さがまるで……。

⑧ 僕の頬^{ほお}をしずくが伝った。これは、涙^{なみだ}か。よかった、全員が通過した後で。

放送部員が近くに誰もいなくて。

取り繕^{つくろ}う相手などいないのに、目にゴミが入ったのだとアピールするかのようには、フリースの袖口^{そでぐち}で目を押^おさえ、カメラをしっかりと構え直す。撮影に集中しろ。

トップを維持^{いじ}したままの桂木先輩は僕の予想よりもはるかに早く姿を現した。三〇〇〇メートルを九分。そんな目標はとづくに通過した人たちのだ。

カメラに集中する。レンズ越^こしに被写体を捉える。二位も通過する。三位は……、良太だ。そのうしろに張りつくように松本兄。二人分の風が通り過ぎていく。頑張れ、良太。松本兄を引き離せ、というか……。

なんで、僕はレンズのこちら側にいるのだろう。

陸上部員全員が通過した後で、カメラをケースに仕舞^{しま}い、広場に向かった。もう、脚^{あし}が勝手に走り出すこともない。だからだと歩く。三キロは長い。

広場の入り口に正也と久米さんが立っていて、僕の姿を見つけると、二人で大きく手を振^ふってくれた。僕が一人で泣いていたんじゃないかと案じて……、というわけではないだろう。僕自身でさえ予想がつかなかったことなのだから。[＊]

少し速度を上げると、お腹^{なか}が鳴った。時間を確認^{かくにん}しようとスマホを取り出すと、正也からLANDのメッセージが届いていた。

『昼メシだぞ』

⑨ 五分前に送信されたものだ。それでお迎え^{むか}えか、と合点^{がてん}がいき、僕は二人のもとに走って向かった。今の僕にとっては精一杯^{せいいつぱい}のスピードなのに、おでこが全開になることはない。

（湊かなえ『ドキュメント』）

＊LAND……メッセージのやりとりをする機能。

問一 ―― 線部1～5のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ―― 線部①「僕はカメラのバッグを肩にかけて広場を出た」とありますが、このときの「僕」の様子を説明したものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 撮影場所を訪れたことで中学時代に走ったときの苦い記憶がよみがえり、陸上部を撮影することになった気が進まずにいる。

イ 撮影場所を訪れてみると中学時代に走ったことのあるコースだったので、陸上部の撮影を成功させようと意欲を燃やしている。

ウ 中学時代に走ったコースが撮影場所であるので、緊張^{きんちよう}となつかしきを感じつつ、陸上部を撮影することになり気になっている。

エ 中学時代に走ったコースが撮影場所であることに興奮し、喜びながらも、陸上部の撮影で失敗しないよう気を引きしめている。

問三 ―― 線部②「慌ててカメラを構える」とありますが、「僕」が「慌ててカメラを構え」たのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 久しぶりに訪れたコースを前に、陸上部員だったころの自分の走りを思い出していたが、真剣^{しんけん}に走る陸上部の選手の姿に心打たれ、放送部員として彼らを上手に撮影したいと思ったから。

イ 思い出深いコースに実際に来てみると、様々な記憶がよみがえり、陸上部の選手の姿にかつての自分が重なつて見えたので、陸上競技の経験者ならではの視点で撮影しようと思ったから。

ウ 一年前に走ったコースを以前のように楽に走れず、途方^{とほう}に暮れていたが、視界に入ってきた選手の走りが全国大会レベルだったので、放送部員として彼らを撮影する責任を強く感じたから。

エ かつて陸上部員として走ったコースを前に、中学時代を思い出していたが、撮影対象である陸上部の選手の姿が見えたことで、自分

問四 ―― 線部③「個別取材」から ―― 線部④「取材直後にはそんなことを考えた」までの内容を次のようにまとめました。（Ⅰ）・（Ⅱ）にあてはまる説明を、それぞれ指定された字数で考えて答えなさい。（ ）、 。（ ）は字数に数えます。）

【「僕」が陸上部員への個別取材を通じて知ったこと】

青海学院の陸上部は、松本兄でさえレギュラーになれないほど（Ⅰ 十字以内 ）ということ。

【「僕」が陸上部員への個別取材のあとに考えたこと】

青海の陸上部に入っていたとしても（Ⅱ 三十字以内 ）ということ。

問五 — 線部⑤「半分は自分への言い聞かせ。半分は本心だ」とありますが、ここでの「僕」の気持ちを説明したものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 陸上への未練がないとは言いい切れないため、放送部に会えてよかったと自分自身に言い聞かせることで、陸上部に入れなかった現実を受け入れようとしてきた。その一方で、青海の陸上部では活躍することが難しいとわかった今となっては、放送部という新たな居場所が自分にできたことをありがたく、うれしく思っているということ。

イ けがで陸上を続けられなくなりしかたなく放送部に入部したため、放送部に出会えてよかったと自分自身に言い聞かせなければ、高校生活を前向きに過ごすことができなかった。その一方で、青海の陸上部を取材して選手のレベルの高さや練習の厳しさを知れば知るほど、放送部のほうが自分に合っていると、心から思うようになったということ。

ウ 自身の陸上選手としての限界から目をそむけてきたが、放送部に出会えてよかったと自分自身に言い聞かせることで、その現実を受け入れようとしてきた。その一方で、放送部でできることが増えて頼りにされることが多くなった今は、放送部という新たな活躍の場を得られたことが心からうれしく、失いたくないと思っているということ。

エ 青海の陸上部ではレギュラーになれそうになかったために、放送部という新たな道を選んだのだが、放送部に出会えてよかったと自分自身に言い聞かせることで、陸上競技から逃げたわけではないと思うようになってきた。その一方で、放送部の楽しさを知るにつれて、自分に新たな才能があるかもしれないと思うようになったということ。

問六 — 線部⑥「陸上部の戦力になれているようで嬉しかった」とありますが、ここでの「僕」の気持ちを次のようにまとめました。
(Ⅰ) ～ (Ⅲ) にあてはまることを本文からそれぞれ漢字二字で探して書きぬき、(Ⅳ) は十字以内で考えて答えなさい。
(、 、 。 「」は字数に数えます。)

「僕」が陸上部の練習を(Ⅰ)し、その(Ⅱ)を見て部員たちが動きを(Ⅲ)して、それぞれの走りに生かそうとしている様子を見て、自分も陸上部の成績向上のために(Ⅳ)ことが嬉しい気持ち。

問七 — 線部⑦「風が吹いた」とありますが、このことをきっかけに「僕」が思い出したのはどのような「風」ですか。本文のことばを使って、二十五字以内で説明しなさい。(、 、 。 「」は字数に数えます。)

問八 — 線部⑧「僕の頬をしずくが伝った。これは、涙か」とありますが、ここでの「僕」の様子を説明したものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 頬をしずくが伝っても自分の流した涙とは気づかないほど、自分が泣いてしまったことが意外でひどく取り乱している。
イ 頬をしずくが伝ったことで初めて涙を流していると気づくほど、目の前のできごとに過去の自分を重ねてうっとりしている。
ウ 頬をしずくが伝ったために自分が泣いていると認めるしかなかったが、周囲には気づかれたくないのでとりつくろっている。
エ 頬をしずくが伝ったことで初めて涙を流していることに気づき、思いがけずあふれてきた自分の感情を静かに受け止めている。

問九 — 線部⑨「今の僕にとっては精一杯のスピードなのに、おでこが全開になることはない」とありますが、ここでの「僕」の様子を次のように考察しました。これを読んであとの(1)・(2)の問いに答えなさい。

「今の僕にとっては精一杯のスピードなのに、おでこが全開になることはない」

①「精一杯のスピード」で走るのは、(Ⅰ)からである。

②「精一杯のスピード」で走っても、「おでこが全開になることはない」のは、「僕」がすでに(Ⅱ)ことを表している。

←

「僕」は、(Ⅲ)。

(1) (Ⅰ)・(Ⅱ)にあてはまることばを、それぞれ十字以内で考えて答えなさい。(、 、 。 「」は字数に数えます。)

(2) (Ⅲ)に入る「僕」の様子はどのようなのですか。本文全体から読みとれる説明として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 陸上部で活躍する未来をあきらめきれず、自分が放送部員であることを認めたくない。

イ 放送部員として新たな道を進もうとしている一方で、陸上部への思いを残している。

ウ 陸上部への思いを完全に断ち切り、放送部員として新たな自分になろうとしている。

エ 放送部員としての活動が楽しく、今後陸上部にかかわることはない決心している。

いて

問三

問九

(2)

1111

ことで完成する。

問五

問六

問七

問八

I



II



問十一

と考えている。

1

問二

問三

I 問四

問五

[illegible]

問六

IV	I
	II
	III

[illegible]

問八

問九 (1) I

(2)

受 験 番 号

受 験 番 号

問一	1	シヨクギョウ
	2	ハタラ
	3	フシ
	4	テイキョウ
	5	シヤクド

職業

働いて

節

提供

尺度

竹	で	あ	ん	だ	下	地	に	タ	ネ
を	ぬ	り	こ	み	、	乾	燥	さ	せ
て	ぬ	り	重	ね	る	こ	と	を	く
り	返	す			ことで完成する。				

問二

ウ

問三

エ

問四

問九

(1)

データ

(2)

ア

問五

イ

問六

持続可能な美しさ

問七

イ

問八

I 愛情

II 不可視

問十一

ウ

※思い・想い・痕跡・丹精・手間も可

どんな人も、空間やモノなどに対して、と考えている。	固	有	の	想	い	を	持	っ	て	お
	り	、	そ	れ	ぞ	れ	の	価	値	観
	を	尊	重	す	る	べ	き	で	、	批
	判	し	た	り	、	優	劣	を	つ	け
	た	り	し	て	は	い	け	な	い	

問一	1	ユダン
	2	ムネ
	3	シガイ
	4	ツト
	5	オサ

問二

ウ

問三

エ

問四

I 選手層が厚い

問五

ア

II	補	欠	に	し	か	な	れ	な	い	の
	け	、	前	向	き	に	努	力	を	続
	る	自	信	が	な	い				

問六

I 撮影

II 動画

III 分析

IV	一	役	買	っ	て	い	る

※別解貢献している

※「意識」も可

問七	自	分	が	走	る	こ	と	で	真	正
	面	か	ら	受	け	た	、	爽	快	な
	風	。								

問八

エ

問九

(1) I 放送部員が待っている

II 陸上部員ではない

(2)

イ

受験番号